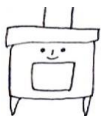


+α

購入・設置の前に知っておきたいこと



●住まい環境と薪ストーブとのマッチング

- ・各メーカーの提示する「最大暖房面積」は、メーカーごとの測定基準の差や、家の断熱性の違いによって異なってきます。「最大暖房面積の7~8割の数値=暖めたい部屋の総面積」を目安に機種を選定しましょう。吹き抜け部分は約2倍の面積と計算し、寒冷地や山間部などは多少面積に余裕を持った機種選びが必要です。
- ・薪ストーブは本体を暖め続けるために最低火力を保つ必要があります。住宅面積に対して大きすぎるストーブはすぐに部屋が暑くなりすぎてしまい、そのために火力を抑えると本体が最低火力を下回るために最適な室温を保つことが難しくなります。

●火災を防ぐために

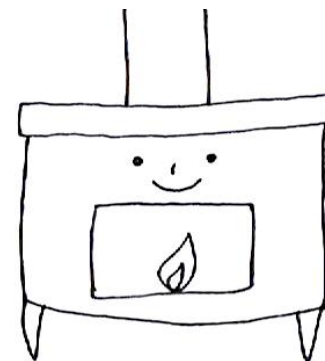
- ・まずは、100℃程度の低温を長時間に渡りさらされることにより発火する「低温炭化」に注意しましょう。ストーブと壁との離隔距離を順守し、メーカーの安全指示に従った煙突設置をしてください。
- ・次に注意が必要なのは、煙突内部に付着したタールに火がついて燃えてしまう「煙道火災」です。これは煙突掃除をきちんと行うことで100%防ぐことができます。また薪の乾燥が不十分であると火が燻りタールの大量発生の原因となります。

●煙の近隣トラブルを避けるために

住宅街での主な近隣トラブルは煙やすす、匂いによるものです。どんなに優れた燃焼方式のストーブでも二次燃焼が行われるまでは白煙が出ます。また、煙が透明に近い排気になったあとも匂いの発生を抑えることはできません。機種選びと共に煙突の位置や長さの検討、焚く時間帯を考えるなど、近隣への気配りを忘れないようにしましょう。

メモ

まきストーブ はじめてガイド

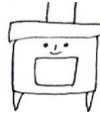


種類や価格帯の豊富な薪ストーブ。導入手順に悩んだときや、基礎知識を知りたいなあと考えたときに開いてほしい、薪ストーブ情報をぎゅっと詰めこんだ、はじめてガイドです。

制作：株式会社 Hibana

キノ知識

まずはストーブや薪のことを見てみましょう



●薪ストーブって??

電気を使わず煙突内で発生するドラフト（上昇気流）のみで火を起こす暖房器具のこと。薪を燃焼させてストーブ本体を熱することで、そこから発する輻射熱によって人やものを暖めます。薪ストーブの種類は大きく下の4つに分類されます。

一次燃焼式ストーブ

だるまストーブ、時計型ストーブなど/数千~数万円



二次燃焼式ストーブ

燃焼システムが備わっている外国製ストーブなど/30~60万円



蓄熱式ストーブ

欧米で主流になりつつあるストーブ/50~100万円



日本の鉄工所などが独自開発しているストーブ/20~40万円
※一次燃焼式または二次燃焼式



※この冊子は近年導入が増加している**二次燃焼式ストーブ**を基準に解説しています。二次燃焼式ストーブは、薪を燃やした時に出る煙を再度燃焼させる仕組みを備えており効率的に部屋を暖めることができます。触媒式、別室燃焼式、クリーンバーン式など様々な方式があり、クリーンな排気になることも特徴です。

●薪の入手と価格

薪の入手方法は「購入」と「調達」の二つに分かれます。継続的に確保できるように、販売店や宅配サービス、自主調達の方法などを確認しておきましょう。

購入：広葉樹の結束薪の販売価格は500円前後。

原木で購入すれば価格を抑えることが可能。

チェーンソーや斧などの道具と、薪割りや乾燥の手間、保管場所が必要。

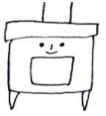
調達：直接山へ入って木を伐ってくる他、地域の里山整備活動や薪作りサークル、薪割りイベントへ参加して調達することができます。

* 造園業の剪定材や製材所の端材を譲り受けるなどの入手方法もあります。

* 建築廃材を利用する場合は接着剤や防腐剤などが含まれていないか注意を。

設置

薪ストーブを設置するための4つのSTEP



Step 1

床の補強

薪ストーブの重さは軽いもので80kg~大型のものでは200kgを超え、さらに煙突や炉台、薪などを置くと600kgほど。家の構造をよく確認し、必要に応じて床下へ補強を行います。

Step 2

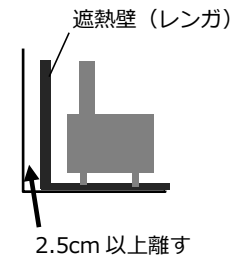
炉台の設置

原則、薪ストーブを直接床に置くのはNG。火災を防ぐため炉台を設置する必要があります。

Step 3

炉壁の設置

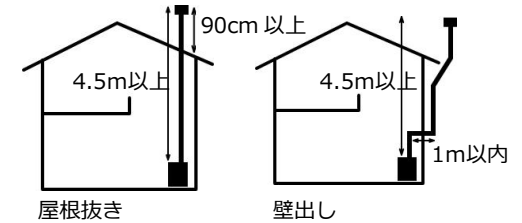
長時間の使用で本体の表面温度は200~300℃以上になることも。壁との平行設置やコーナー設置では、レンガなどで遮熱壁を設けなければなりません。法律の規定では遮熱壁と既存の壁は2.5センチ以上離します。



Step 4

煙突の取り付け

薪ストーブは電気力を使わずにドラフト（上昇気流）を発生させ、その勢いで煙を外へ排出します。煙突の長さは4.5m以上が必要です。煙突の立ち上げ方は「屋根抜き」と「壁出し」の2種類あります。



・・・設置費用とランニングコスト・・・

★薪ストーブ導入に必要な経費は概ね、本体：30~100万円、煙突部材：40~60万円、設置施工費用：10~30万円、合計80~190万円となります。

★一日に必要な薪の量は2~3束程度。※ストーブ、薪の樹種、使用時間で大きく異なります。その場合のコストは薪の調達方法によって0~約1500円/1日となります。